

子どものスポーツクラブに関する研究 —活動実態と未加入者の意識—

藤原 誠¹⁾ 堺 賢治¹⁾

A study on sport club of children
— the actual conditions of activity and consciousness of unjoined children —

Makoto Fujiwara¹ Kenji Sakai¹

Key words : children , sport club , actual conditions , consciousness of unjoined children

(Bulletin of Department of Physical Education, Faculty of Education,
Ehime University, 8, 19-26, March, 2012)

キーワード: 子ども, スポーツクラブ, 実態, 未加入者意識

I 結 言

2011年8月, スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことが全ての人々の権利であるとする「スポーツ基本法」が施行された。日常的にスポーツに親しみ, スポーツを楽しむ, スポーツを支える活動に参画する機会の確保が社会的に求められる時代となった。これに先立ち策定された「スポーツ振興基本計画」(2000), さらに「スポーツ立国戦略」(2010)においても, 国民の誰もが, それぞれの体力や年齢, 技術, 興味・目的に応じて, いつでも, どこでも, いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現について記述されている。今や生涯スポーツは我が国のスポーツ政策の根幹をなす重要課題となった。

しかしながら国民のスポーツ実施状況についてみると, 積極的にスポーツを実施している者と, 全くスポーツに関心をもたず, スポーツとは無縁の生活を送っている者もいる。生涯スポーツの振興を図るには, 子どもの頃からスポーツに親しみ, スポーツの楽しさを体感し, スポーツに対して肯定的な感情・意識を醸成することが必要となる。そのような場として子どものスポーツクラブは, その機能を発揮することが期待さ

れる。著者はこれまで, このような生涯スポーツの観点から子どものスポーツ実施について調査研究を行ってきた。スポーツクラブに加入したにもかかわらず, さまざまな理由によりクラブから離脱していく者も少なからず存在する。子どもが初めて本格的にスポーツに接するスポーツクラブのあり方は, 子どもの将来のスポーツ実施を左右する重要な鍵を握っているといえよう。さらに, スポーツクラブへの加入をためらっている者に対して, スポーツクラブへの加入を促進するような手立てを考えることも必要となる。

そこで本研究では, 子どもの日常生活の状況を把握し, 日常生活とスポーツクラブへの加入との関係を検討するとともに, スポーツクラブ加入者の活動実態や活動意識を明らかにする。さらに, スポーツクラブ未加入者の求めるスポーツクラブ像を明らかにすることにより, 未加入者の加入を促進するスポーツクラブのあり方を検討することを目的とした。

II 方 法

1. 調査対象

愛媛県松山市の小学校4・5年生児童。

2. 調査方法

1) 愛媛大学教育学部
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

1. Faculty of Education, Ehime University,
Bunkyo-cho 3, Matsuyama-shi, Ehime,
〒790-8577, Japan

質問紙による配票調査。配布数549, 有効回収数525, 有効回収率95.6%。

3. 調査時期

2010年11月。

4. 分析の視点

表1に示すように、スポーツクラブに加入している子どもを加入群、未加入の子どもを未加入群とした。スポーツクラブに加入したが途中でやめた子ども(離脱群)もいるが、加入者と未加入者の差異を明確にするため、分析の対象から除外した。さらに、スポーツクラブへの加入状況は性別により異なるため、男女別に分析を行うこととした。

上記の視点から、子どものスポーツクラブの活動実態やスポーツクラブに対する意識を分析していく。

表1 スポーツクラブへの加入

分類	男子		女子		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
加入群	132	49.3	58	22.6	190	36.2
未加入群	117	43.7	188	73.2	305	58.1
離脱群	19	7.1	11	4.3	30	5.7

p<0.001
(χ^2 検定, 以下同じ.)

Ⅲ 結果と考察

1. 遊びについて

(1) 遊びの相手・人数

表2は遊びの相手について示している。男子、女子のいずれにおいても、合計では学校の友達をあげる者が最も多い。スポーツクラブへの加入者と未加入者を比較すると、加入者ではスポーツ少年団などのスポーツクラブの友だちと遊ぶ者が多くなっている。特に女子では、スポーツクラブの友だちと遊ぶ者は学校の友達と遊ぶ者より多くなっている。このことから、スポーツクラブへの加入は、学校の友達に加えて新たな友達をつくるという人間関係の広がりをもたらす機能も持っていることがうかがえる。

表2 遊びの相手

男子		女子		
項目	加入	未加入	合計	(%)
学校の友達	50.8	76.1	62.7	
スポーツ少年団などの友達	29.5	0.0	15.7	
近所の友達	6.8	8.5	7.6	
きょうだい	6.8	8.5	7.6	
ひとり	4.5	6.0	5.2	
その他	1.5	0.9	1.2	

p<0.001

女子 (%)

項目	加入	未加入	合計
学校の友達	31.0	66.3	58.0
きょうだい	13.8	16.6	15.9
近所の友達	15.5	12.8	13.5
スポーツ少年団などの友達	37.9	0.0	9.0
ひとり	1.7	3.2	2.9
その他	0.0	1.1	0.8

p<0.001

表3は自分を含めた遊びの人数を示している。男子、女子のいずれにおいても、3~4人で遊ぶ者が最も多い。男子と女子を比較すると、5人以上で遊ぶ者は男子が29.3%であるのに対して女子は11.4%であり、男子の方が多人数で遊ぶ傾向にある。

加入者と未加入者を比較すると、1人または2人の少人数で遊んでいる者は、男子加入者で18.2%、男子未加入者で25.7%、また、女子加入者で22.4%、女子未加入者で34.2%となっており、加入者に比べて未加入者の方が少人数で遊ぶ傾向がややみられる。

表3 遊びの人数

男子		女子 (%)		
項目	加入	未加入	合計	(%)
1人	5.3	6.0	5.6	
2人	12.9	19.7	16.1	
3~4人	50.8	47.0	49.0	
5~9人	27.3	24.8	26.1	
10人以上	3.8	2.6	3.2	

n. s.

女子 (%)

項目	加入	未加入	合計
1人	0.0	4.8	3.7
2人	22.4	29.4	27.8
3~4人	67.2	54.0	57.1
5~9人	10.3	10.7	10.6
10人以上	0.0	1.1	0.8

n. s.

(2) 遊びの場所

表4は学校が終わった後の遊びの場所について示している。女子は男子に比べて家の外で遊ぶ者は少なく、また、あまり遊ばないという者が多くなっている。このように、女子は男子に比べて屋外での遊びや、遊び自体にも消極的な傾向がみられる。

表4 遊びの場所

男子		女子 (%)		
項目	加入	未加入	合計	(%)
家の中	20.5	28.4	24.2	
家の外	35.6	36.2	35.9	
家の中と外が同じくらい	30.3	26.7	28.6	
あまり遊ばない	13.6	8.6	11.3	

n. s.

項目	加入	未加入	合計
家の中	24.1	28.0	27.0
家の外	17.2	18.8	18.4
家の中と外が同じくらい	32.8	29.6	30.3
あまり遊ばない	25.9	23.7	24.2

n. s.

加入者と未加入者を比較すると、未加入の方が家の中で遊ぶ者がやや多くなっているが、大きな差異は認められない。

(3) 楽しいと感じるとき

表5は、遊んでいるとき一番楽しいと感じるのはどのようなときかを尋ねた結果を示している。男子、女子のいずれにおいても、友達となかよくできたときに楽しいと感じる者が最も多くなっている。これに次いで、試合やゲームで勝ったときを挙げる者が多い。男子と女子を比較すると、友達となかよくできたとき楽しいとする者は女子に多く、試合やゲームで勝ったとき楽しいとする者は男子に多い。女子は友達との交流、男子ではそれに加えて試合での勝利を志向していることがうかがえる。

加入者と未加入者を比較すると、友達となかよくできたとき楽しいと感じる者は未加入者に多く、試合やゲームで勝ったとき楽しいとする者は加入者に多い。特にこの傾向は女子において顕著である。このようにスポーツクラブに加入している者は、遊びにおいても勝利を志向していることがうかがえる。

表5 楽しいとき感じるとき

項目	加入	未加入	合計
友達となかよくできたとき	34.6	41.4	37.8
試合やゲームで勝ったとき	40.0	26.7	33.7
一生懸命運動したとき	21.5	21.6	21.5
友達にほめられたとき	3.1	7.8	5.3
その他	0.8	2.6	1.6

n. s.

項目	加入	未加入	合計
友達となかよくできたとき	40.4	66.8	60.6
試合やゲームで勝ったとき	31.6	12.5	17.0
一生懸命運動したとき	19.3	12.0	13.7
友達にほめられたとき	8.8	8.7	8.7

p<0.01

2. 体育・スポーツについて

(1) 体育の好き嫌い

表6は学校での体育の好き嫌いについて示している。男子、女子のいずれにおいても、体育が好きという者が最も多く、これに次いで、どちらかといえば好

きという者が多くなっている。特に男子では92.4%の者が、体育が好き、または、どちらかといえば好きと答えており、体育を好意的に受け入れている子どもが多いことがうかがえる。

加入者と未加入者の比較では、体育が好きという者は加入者の方が多くなっている。スポーツクラブへの加入者は学校での体育も好んで受講していることが推察される。これに対して、スポーツクラブへの未加入者では、体育が嫌い、あるいは、どちらかといえば嫌いという者が比較的多くなっている。特に女子では、25.1%の者が体育が嫌い、または、どちらかといえば嫌いと答えており、スポーツクラブ未加入者の体育嫌いの一端が垣間見える。

表6 体育の好き嫌い

項目	加入	未加入	合計
好き	78.8	57.3	68.7
どちらかといえば好き	17.4	30.8	23.7
どちらかといえば嫌い	2.3	7.7	4.8
嫌い	1.5	4.3	2.8

p<0.01

項目	加入	未加入	合計
好き	67.2	42.8	48.6
どちらかといえば好き	25.9	32.1	30.6
どちらかといえば嫌い	3.4	18.7	15.1
嫌い	3.4	6.4	5.7

p<0.01

(2) 勉強とスポーツ

表7は勉強とスポーツのどちらに熱心に取り組んでいるかについて示している。男子ではスポーツに、女子では勉強に熱心に取り組んでいる者が最も多くなっている。スポーツ実施における性差が表れたものと考えられる。

加入者と未加入者を比較すると、男子、女子のいずれにおいても、スポーツに熱心に取り組んでいる者はスポーツクラブへの加入者に多く、男子、女子ともに60%程度を占めている。スポーツクラブに加入することによって、スポーツへの取り組みが高まっていることを示している。

表7 勉強とスポーツ

項目	加入	未加入	合計
勉強に熱心に取り組んでいる	3.8	28.4	15.4
スポーツに熱心に取り組んでいる	62.6	36.2	50.2
どちらも熱心に取り組んでいる	31.3	19.0	25.5
どちらも熱心に取り組んでいない	2.3	16.4	8.9

p<0.001

女子 (%)

項目	加入	未加入	合計
勉強に熱心に取り組んでいる	8.6	42.5	34.4
スポーツに熱心に取り組んでいる	60.3	21.5	30.7
どちらも熱心に取り組んでいる	31.0	24.2	25.8
どちらも熱心に取り組んでいない	0.0	11.8	9.0

p<0.001

(3) 運動・スポーツの好き嫌い

表8は運動やスポーツをすることが好きか尋ねた結果を示している。男子、女子のいずれにおいても、好きという者が最も多くなっている。特に男子では好きという者が7割を超えており、どちらかといえば好きという者を加えると9割に及んでいる。男子ではほとんどの者が運動やスポーツの実施に対して好意的な感情を抱いていることが分かる。

加入者と未加入者を比較すると、運動やスポーツをすることが好きという者は加入者に多く、男子、女子のいずれにおいても8割を超えている。これに対して、運動やスポーツをすることが嫌い、または、どちらかといえば嫌いという者は未加入者に多い。特に女子では25.7%に及んでおり、スポーツクラブ未加入の女子において運動・スポーツ嫌いが顕著となっている。

表8 運動・スポーツの好き嫌い

男子 (%)

項目	加入	未加入	合計
好き	86.4	54.8	71.7
どちらかといえば好き	11.4	30.4	20.2
どちらかといえば嫌い	2.3	11.3	6.5
嫌い	0.0	3.5	1.6

p<0.001

女子 (%)

項目	加入	未加入	合計
好き	81.0	38.0	48.2
どちらかといえば好き	15.5	36.4	31.4
どちらかといえば嫌い	1.7	21.4	16.7
嫌い	1.7	4.3	3.7

p<0.001

(4) スポーツをするとき大切なこと

表9はスポーツをするとき、何が一番大切だと思うかという質問に対する回答結果を示している。男子、女子ともに、楽しくやること、あるいは、一生懸命やることが大切だとする者が多い。

スポーツクラブへの加入状況別にみると、加入者では未加入者に比べて、やるからには勝つことが大事だとする者が多く、男子で16.7%、女子で16.1%を占めている。この値は未加入者の値に比べて、かなり高率となっている。スポーツクラブへの加入者はスポーツでの勝利に重きを置く傾向があることがうかがえる。

表9 スポーツをするとき大切なこと

男子 (%)

項目	加入	未加入	合計
やるからには勝つことが大事	16.7	6.0	11.7
一生懸命やれば良いと思う	36.4	34.5	35.5
楽しくやるが一番だと思う	40.2	44.0	41.9
あまり考えたことがない	6.8	15.5	10.9

p<0.05

女子 (%)

項目	加入	未加入	合計
やるからには勝つことが大事	16.1	2.7	5.8
一生懸命やれば良いと思う	42.9	44.9	44.4
楽しくやるが一番だと思う	39.3	44.4	43.2
あまり考えたことがない	1.8	8.0	6.6

p<0.01

3. スポーツクラブの活動

(1) 活動日数・練習時間

表10はスポーツクラブの活動日数を示している。週当たり5~6日となっている者が最も多く、過半数を占めている。これに次いで3~4日の者が20%程度を占めている。これらに毎日活動を実施している者を加えると、週3日以上活動を実施している者は75%を超えることになる。小学生が加入しているスポーツクラブの活動頻度の高さがうかがえる。

表10 活動日数

(%)

項目	男子	女子	合計
週に1日	16.5	10.2	14.6
週に2日	11.3	6.8	9.9
週に3~4日	18.0	25.4	20.3
週に5~6日	51.9	55.9	53.1
毎日	2.3	1.7	2.1

n. s.

次に、スポーツクラブの1日の練習時間についてまとめると、表11および表12のようになる。平日の練習は学校の授業終了後となるため、長時間に及ぶことは比較的少ない。男子、女子の合計では、1時間以上2時間未満が最も多く38.2%、これに次いで2時間以上3時間未満が26.6%となっている。しかし、3時間以上の者も22.2%おり、そのうち4時間以上となる者も5%程度いる。活動頻度の高さを考慮すると、スポーツクラブの活動が子どもにとってかなりの負担となっていることが推測される。

休日の練習時間は平日に比べて長くなる傾向を示している。平日では2時間未満の者が51.2%を占め、過半数となっているが、休日では2時間未満の者は17.0%にとどまっている。これに対して3時間以上の者は休日では67.2%を占めており、そのうちの32.2%の者は4時間以上となっている。子どもの休日の生活にお

いて、スポーツクラブの活動が大きな位置を占めていることがうかがえる。

表11 練習時間 (平日) (%)

項目	男子	女子	合計
1時間未満	16.2	6.2	13.0
1時間以上2時間未満	43.0	27.7	38.2
2時間以上3時間未満	21.8	36.9	26.6
3時間以上4時間未満	14.8	23.1	17.4
4時間以上	4.2	6.2	4.8

p<0.05

表12 練習時間 (休日) (%)

項目	男子	女子	合計
1時間未満	9.8	5.6	8.5
1時間以上2時間未満	5.7	14.8	8.5
2時間以上3時間未満	17.9	11.1	15.8
3時間以上4時間未満	30.9	44.4	35.0
4時間以上	35.8	24.1	32.2

n. s.

(2) 活動意識

表13はスポーツクラブの練習に行きたくないことがあるか尋ねた結果を示している。多くの子どもは熱心に活動に取り組んでおり、練習に行きたくない時はない、あるいは、あまりないという者が78.1%を占めている。しかし、練習に行きたくない時がよくある、または、まあまああるという者も21.9%を占めており、2割程度の者は様々な事情を抱えながらもスポーツクラブの活動を継続しているという状況となっている。

表13 練習に行きたくない時 (%)

項目	男子	女子	合計
よくある	3.0	1.7	2.6
まあまあある	18.0	22.0	19.3
あまりない	39.1	37.3	38.5
ない	39.8	39.0	39.6

n. s.

次に、スポーツクラブに入ってよくなかったと思うことについてまとめたものが表14である。スポーツクラブでの活動に時間を費やすことに起因する、他の生活領域における時間の不足等についての回答が多い。友達と遊べない、勉強する時間がなくなる、家族と過ごす時間がなくなるという回答である。これに加えて、けがをすること、練習や試合でつかれることなどがあげられている。子どもたちはクラブ加入に伴うこれらのデメリットを感じながらも活動に参加していることがわかる。

表15はスポーツクラブで何を目標にして活動に取り組んでいるのかを示したものである。最も多いのは、じょうずになることであり、47.2%を占めている。こ

れに次いでレギュラーになることを目標にしている者が多く、37.8%となっている。さらに、試合で勝つことを目標とする者、32.6%と続いている。このようにスポーツクラブに加入して活動している子どもたちの目標は、じょうずになり、レギュラーになり、試合に出場して勝つということに集約される傾向をみせている。これに比較して、スポーツ活動を通して獲得される体力や礼儀・マナー等については目標とする者は少ない。同様に、スポーツが本来もっている楽しさを求めて活動する者も多くない。

表14 よくなかったと思うこと M.A. (%)

項目	男子	女子	合計
友達と遊べない	39.6	35.6	38.3
勉強する時間がなくなる	27.6	28.8	28.0
けがをすること	20.1	18.6	19.7
練習や試合でつかれる	18.7	18.6	18.7
家族と過ごす時間がなくなる	12.7	25.4	16.6
友達に悪口を言われる	10.4	11.9	10.9
学校の成績が下がる	6.0	6.8	6.2

表15 活動の目標 M.A. (%)

項目	男子	女子	合計
じょうずになる	45.5	50.8	47.2
レギュラーになる	35.8	42.4	37.8
試合で勝つ	29.9	39.0	32.6
体力づくり	28.4	13.6	23.8
スポーツを楽しむ	23.1	20.3	22.3
れいぎやマナーを身につける	9.7	11.9	10.4
友達づくり	4.5	3.4	4.1

さらに、スポーツクラブの監督やコーチは、どのようなことを目標として指導していると子どもたちは思っているか、子どもたちが認識している指導者の目標について表16にまとめた。子どもたちは日頃の活動の中で、指導者の言動から指導者が何を目標として指導しているのか感じとっている。子どもたちが認識している指導者の目標は、まず、技術を身につけさせるということである。これに次いで、試合で勝たせることがあげられている。この二項目は子ども自身の活動目標のうち上位に位置づけられている項目であり、クラブの雰囲気や指導者、子どものいずれにおいても、技術・勝利を志向する方向にあることが推察される。

表16 指導者の目標 M.A. (%)

項目	男子	女子	合計
技術を身につけさせる	44.8	37.3	42.5
試合で勝たせる	39.6	42.4	40.4
スポーツの楽しさを味わわせる	27.6	33.9	29.5
体力をつけさせる	20.9	16.9	19.7
れいぎやマナーを身につけさせる	16.4	20.3	17.6
精神をきたえる	15.7	16.9	16.1
みんなでなかよく活動させる	13.4	16.9	14.5

表17および表18は現在のスポーツクラブの練習時間や練習回数に対する子どもの評価についてまとめたものである。練習時間については6割程度の者がちょうどよいとしている。しかし、長すぎる、あるいは、少し長いという者も24.0%を占めており、活動時間が長いと思いつながり参加している者も全体の四分の一に及んでいることがわかる。

練習回数についても6割を超える者がちょうどよいとしているが、多すぎる、または、少し多いという者は21.4%となっており、練習回数についても多いと思いつながり参加している者が2割程度いることがわかる。

表17 練習時間について (%)

項目	男子	女子	合計
長すぎる	9.0	1.7	6.8
少し長い	18.0	15.3	17.2
ちょうどよい	54.1	71.2	59.4
少し短い	13.5	10.2	12.5
短すぎる	5.3	1.7	4.2

n. s.

表18 練習回数について (%)

項目	男子	女子	合計
多すぎる	3.0	1.7	2.6
少し多い	18.0	20.3	18.8
ちょうどよい	63.9	66.1	64.6
少し少ない	11.3	8.5	10.4
少なすぎる	3.8	3.4	3.6

n. s.

4. 未加入者が求めるスポーツクラブ

(1) 加入意思と未加入理由

表19はスポーツクラブに加入しようと思ったことの有無をスポーツクラブ未加入者に尋ねた結果を示している。スポーツクラブに加入しようと思ったことがある者は3割程度となっている。しかし、この加入希望は何らかの事情により実際には加入につながっていない。

表19 スポーツクラブに加入しようと思ったこと (%)

項目	男子	女子	合計
ある	35.7	26.7	30.1
ない	64.3	73.3	69.9

n. s.

次に未加入の理由についてまとめると表20のようになる。最も多いのは、自由な時間がなくなるという理由である。これに加えて、体力に自信がないことやスポーツが得意でないことなど、体力や技能に関する不安をあげる者が多い。さらに、練習がきびしうということや監督やコーチがきびしうという理由をあげ

る者が多い。スポーツクラブは体力がなくてはやっていけない、スポーツがうまくなければ参加できない、あるいは、スポーツクラブは練習が厳しく、指導者も厳しいので参加しづらいといったイメージが未加入の子どもたちにはあるように思われる。

表20 未加入の理由 M.A. (%)

項目	男子	女子	合計
自由な時間がなくなる	43.5	28.3	34.1
体力に自信がないから	20.9	24.1	22.8
他にやりたいことがあるから	15.7	24.1	20.9
練習がきびしう	15.7	19.8	18.2
スポーツが得意ではないから	12.2	19.8	16.9
親が反対したから	19.1	11.8	14.6
監督やコーチがきびしう	10.4	9.1	9.6
勉強を一生懸命したい	7.8	10.2	9.3
仲間とうまくやっていく自信がない	7.8	8.0	7.9
スポーツに興味がないから	1.7	9.6	6.6

上述の未加入理由を考慮したうえで、未加入の子どもたちが抱えているスポーツクラブのイメージについてみると表21のようになる。まず最初にあげられるのは、練習がきびしいというイメージである。これに次いで、自由な時間がへるというイメージが続いている。これらはスポーツクラブへの未加入理由となっており、子どものスポーツクラブ加入の可能性を低減させているといえよう。また、競技レベルが高いというイメージをもつ者も多く、自分の技能レベルでは参加できないと思う者もいるものと思われる。

これらに加えて注目すべきことは、仲間ができるというイメージや活動が楽しそうというイメージをもつ者が多いということである。さらに、楽しい時間が過ごせるというイメージをもつ者もいる。これらのイメージはスポーツクラブへの加入につながるプラスのイメージであり、今後これらのイメージをもつ者が増えるようなスポーツクラブの運営が求められることになる。

表21 スポーツクラブのイメージ M.A. (%)

項目	男子	女子	合計
練習がきびしい	32.2	47.1	41.4
自由な時間がへる	36.5	22.5	27.8
仲間ができる	22.6	20.9	21.5
競技レベルが高い	19.1	22.5	21.2
活動が楽しそう	22.6	17.1	19.2
監督やコーチがこわい	11.3	19.8	16.6
勝利を目指している	10.4	10.2	10.3
楽しい時間が過ごせる	7.8	8.0	7.9

(2) 活動日数・練習時間についての希望

加入するとしたら、どの程度の活動頻度・時間のスポーツクラブがよいか、未加入者に尋ねた結果を以下

の表22, 表23, 表24に示した。

活動日数についてみると、週に2日の活動を望む者が最も多く、次いで週に1日の活動を望む者が多い。この両者をあわせると76.1%を占めることになり、多くの者は週に1~2日の活動を希望していることがわかる。既述した実際のスポーツクラブの活動頻度(表10)は週に5~6日が最も多く53.1%を占めていたことを考えると、大きなギャップがあることがわかる。

表22 活動日数 (%)

項目	男子	女子	合計
週に1日	36.0	38.0	37.2
週に2日	38.7	39.0	38.9
週に3~4日	18.9	18.2	18.5
週に5~6日	5.4	2.1	3.4
毎日	0.9	2.7	2.0

n. s.

次に平日の練習時間をみると、1時間以上2時間未満を希望する者が最も多く46.3%を占め、次いで、1時間未満を希望する者が28.5%となっている。この両者を合わせた74.8%の者は2時間未満の練習を希望していることになる。既述した実際のスポーツクラブの平日の練習時間(表11)をみると、1時間未満は13.0%、1時間以上2時間未満は38.2%、残りの48.8%の者は2時間以上となっており、未加入者は実際に行われているスポーツクラブの練習時間より短い練習時間がよいとする者が多い。

この傾向は休日の練習時間においてより顕著となっている。未加入者の2時間未満の希望が63.8%に及んでいるのに対して、実際のスポーツクラブの休日の活動状況(表12)では2時間未満は17.0%にとどまり、3時間以上が67.2%に及んでいる。

表23 練習時間(平日) (%)

項目	男子	女子	合計
1時間未満	26.8	29.6	28.5
1時間以上2時間未満	48.2	45.2	46.3
2時間以上3時間未満	11.6	18.3	15.8
3時間以上4時間未満	9.8	5.4	7.0
4時間以上	3.6	1.6	2.3

n. s.

表24 練習時間(休日) (%)

項目	男子	女子	合計
1時間未満	30.4	28.4	29.2
1時間以上2時間未満	33.9	35.0	34.6
2時間以上3時間未満	22.3	21.9	22.0
3時間以上4時間未満	10.7	9.3	9.8
4時間以上	2.7	5.5	4.4

n. s.

以上のように、実際に行われているスポーツクラブの活動は、未加入者が望む活動頻度や練習時間を越えたものとなっている。

(3) 活動の目標

表25はスポーツクラブに入るなら何を目標とするか、未加入者に尋ねた結果を示している。最も多いのは、じょうずになるということであり、47.7%を占めている。既述したように(表15)、スポーツクラブ加入者の活動目標においても、最も多いのは、じょうずになるということであり、スポーツクラブの活動を通して上手になりたいという思いは、スポーツクラブへの加入、未加入にかかわらず、多くの子どもがもつ願いであることがわかる。これに次いで未加入者では、体力づくりをあげる者が多い。これは、未加入理由として、体力に自信がないことをあげる者が多くいたことと関係しているように思われる。さらに、未加入者では、スポーツを楽しむこと、あるいは、友達づくりを目標としたという者が多い。加入者の目標として上位を占めていた、レギュラーになることや、試合で勝つことをあげる者は、未加入者では少ない。これらのことを考えると、現在のスポーツクラブに未加入者が新たに加入したとしても、既存のメンバーとの意識の相違等により、活動の継続に支障が出ることも予測される。

表25 活動の目標 M.A. (%)

項目	男子	女子	合計
じょうずになる	40.9	51.9	47.7
体力づくり	51.3	32.6	39.7
スポーツを楽しむ	31.3	38.5	35.8
友達づくり	13.9	17.6	16.2
試合で勝つ	12.2	16.6	14.9
レギュラーになる	8.7	6.4	7.3
れいぎやマナーを身につける	6.1	4.3	5.0

IV 結 語

本研究は、子どもの日常生活とスポーツクラブ加入の関係、スポーツクラブの活動実態、および、スポーツクラブ未加入者の求めるスポーツクラブ像を明らかにすることを目的とした。結果の概要は以下のようになる。

スポーツクラブへの加入者は遊びにおいて、学校の友達に加えてスポーツクラブの友達と遊んでおり、スポーツクラブへの加入により友人関係が広がりをみせている。

遊んでいるとき楽しいと感じるのは、加入者では試合やゲームで勝ったときをあげる者が多いのに対して、未加入者では友達となかよくできたときをあげる者が多く、遊びにおいて両者の志向は異なっている。加入者は遊びの場面でも勝利を志向していることがわかる。

また、加入者は未加入者に比べて、学校での体育や運動・スポーツをすることが好きな者が多く、勉強とスポーツを比較したときにスポーツに熱心に取り組んでいるという者が多い。さらに、スポーツをするとき、やるからには勝つことが大事だとする者が多く、スポーツでの勝利に重きを置く傾向がみられた。

スポーツクラブの活動は週当たり5～6日の者が過半数を占めており、練習時間も平日で3時間を超える者が20%程度、休日で4時間を超える者が30%程度おり、活動の頻度・時間の多さが指摘できる。このような状況の中で、スポーツクラブに加入してよくなかったこととして、友達と遊べないなど、他の生活領域における時間の不足をあげる者が多い。さらに、けがや練習・試合で疲れることをあげる者も多い。このように、子どもたちはクラブ加入に伴うデメリットを感じながらもスポーツクラブの活動に参加している。

スポーツクラブでの目標はじょうずになり、レギュラーになり、試合で勝つということに集約される状況となっている。

スポーツクラブへの未加入者の未加入理由は自由な時間がなくなるという理由に加えて、体力に自信がない、スポーツが得意ではないなど、体力や技能に関する不安をあげる者も多い。さらに、練習あるいは指導者が厳しそうという理由をあげる者も多い。スポーツクラブのイメージについても未加入者は、まず、練習が厳しいということあげている。スポーツクラブのイメージについてはこれに加えて、自由な時間が減る、競技レベルが高いという者が多い。このように未加入者では、活動が厳しくてついていけそうにない、あるいは、自分の技能レベルでは参加できないなどのイメージをもつ者が多いものと思われる。しかし、スポーツクラブのイメージとして、仲間ができる、活動が楽しそう、楽しい時間が過ごせるといった、スポーツクラブ加入にプラスとなるようなイメージをもつ者もいる。このようなイメージをもつ者が増えるようなスポーツクラブのあり方が問われることになる。

未加入者が希望するスポーツクラブの活動日数・練習時間は現実に展開されているスポーツクラブの活動よりも少なく、活動日数は週に1～2日程度、練習時間は平日、休日ともに2時間未満程度となっている。活動の目標は加入者と同様に上手になることをあげるものが最も多いが、体力づくり、さらに、スポーツを楽しんだり友達づくりをすることをあげるものが多い。加入者が多くあげていたレギュラーになることや試合で勝つことをあげるものは少ない。

以上のことを考えると、現在、実際に活動を行っているスポーツクラブは、未加入者が希望するよりも活動の頻度や活動時間は多く、活動も勝利を志向する傾向が強いものとなっている。そのような状況を未加入者は感じとり、自己の体力や技能レベルでは参加できないというイメージを抱いている。生涯スポーツの観点からすると、今後は、体力レベルや技能レベルが高くなっても参加可能なスポーツクラブの育成が求められることになる。

文献

- 藤原誠 (1997) 子どものスポーツに関する研究—スポーツクラブからの離脱を中心に—。愛媛大学教育学部保健体育紀要 第1号, 21-34。
- 藤原誠 (1998) 子どものスポーツに関する研究(Ⅱ)—勝敗観とクラブ参加状況の関係について—。愛媛大学教育学部保健体育紀要 第2号, 17-24。
- 藤原誠, 堺賢治 (2003) 中学生のスポーツクラブへの加入に関する研究。愛媛大学教育学部保健体育紀要 第4号, 29-38。
- 藤原誠, 堺賢治 (2004) 子どものスポーツクラブ活動に関する研究—試合への出場状況と活動意識—。愛媛大学教育学部紀要 第51巻, 第1号, 121-128。
- 藤原誠, 堺賢治 (2009) 中学校の運動部活動に関する研究。愛媛大学教育学部保健体育紀要 第6号, 25-34。
- 文部科学省 (2006) スポーツ振興基本計画 (改定)。
- 文部科学省 (2010) スポーツ立国戦略—スポーツコミュニティ・ニッポン—。
- 文部省 (2000) スポーツ振興基本計画。
- スポーツ基本法 (2011)